



身体と心を動かす体験を通して

自分で判断できる子に

コロナ禍以前には、毎年行っていた坂町のこども園、保育園の「交流運動あそびの会」を久しぶりに実施しました。4つの園の年長児114名が集まり、身体を動かす楽しさを存分に味わいました。まずは2人一組になり、足じゃんけん大会。2人で何を出すか相談して決めたり、息を合わせて「じゃんけんぽん！」と足でじゃんけんを表現し、子どもたちは、勝ったり負けたりすることに一喜一憂していました。自分ひとりで決めて、一人で動くことのほうが簡単なこともありますが、友だちと相談したり、考えたり、力を合わせることで得られる達成感もあると思います。

子どもたちは、マットやフープなどの用具を使い、お互いに声をかけあい、友だちの存在を感じながら、目標を持って身体を動かしていました。また、講師の阿部先生が、次の運動あそびのお話しをするために声をかけると、子どもたちは、すぐに自分自身で動きを止め、話を聞く姿勢になる事ができました。その姿を見て、今、自分は何をするべきかの判断力が身についてきていることを感じました。この自分で判断する力は、小さい時から身近な大人にしっかりかわいがられ、“自分はうまれてきて良かった”と自分を自分で認められることから始まり、これを土台にして物事に興味関心を持ち、主体的に自ら関わることで身につけていきます。保育園でもお友だちと様々な活動を楽しみ、一緒に取り組むことでさらに少し難しい事でも「できるようになりたい!」「知りたい!」

と意欲が高まります。

このような小さい時からの積み重ねがあるからこそ、何事も粘り強く挑戦し、自分ごととして考え、判断することができるようになるのです。そしてこの力は、大人になってからも、とても必要な力であり、乳幼児期の今こそ多様な経験を通して身につけることができるようにしていきたいと考えています。

保育園と小学校との合同運動会が9月30日(土)に行われました。小屋浦小学校創立150年という節目の運動会でした。子どもたちは、運動会までに何度か小学校の広い運動場で風を感じながら走ったり、友だちと一緒に表現をすることを楽しんでいました。「〇〇ができる」ではなく、「いっしょに楽しむ」ことを目標に取り組んできた運動会でした。

昨年の運動会のことを振り返ってみると、子どもたち一人ひとりの姿の中に、成長を感じていただけたと思います。今回の運動会が終わった後、「走るの、かっこよかったよ」「旗、ポンポンきれいだったよ」など、大好きなおうちの人に誉めてもらった子どもたちは、「やればできるんだ」という自信が生まれ、自己肯定感がさらに高まっていくことでしょう。

10月は実りの秋、子どもたちにとっても実り多き日々となるように、子どもたちの成長につながる経験ができるような環境を工夫し、子どもたちの発見を共に楽しんでいきたいと思えます。

園長



ポンポン持って
ダンスするの
楽しいよみて!

「1・2・3・4・5!」
気持ちを合わせて



小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんといっしょに



手を離さないで
フープを
運べるかな・・・



運動あそびの会

もによもによむしに
変身して進もう



いろんなトンネルが
できるね



秋といえば・・・

読書の秋・スポーツの秋・食欲の秋と言われます。気候も良く過ごしやすい秋はいろいろなことに落ち着いて向き合える季節です。お子さんの好きなこときょうみのあることを一緒に身体や心を動かしてやってみるとお子さんの見えなかった姿に出会えるかもしれませんね。

感謝する気持ち 地域の方へ、収穫物へ

地域の方が愛情いっぱいにお世話をしてくださったさつま芋を収穫させていただきました。「今年は雨が少なかったけん芋は小さいけど味はええよ」と声をかけてくださいました。お家に持ち帰ったさつま芋はどんなふうにお料理してもらったのでしょうか。保育園でもクッキングをして食べたいと思います。保育園の裏の畑の芋掘りも楽しみです。



柔軟な身体を・・・

一年前にも大根の種
まいたよね
どんな種だった?



キャベツの苗植え
この葉っぱがキャベツになる?

